

資料 1

田上教授資料

歯科医療ビジョン

歯科医療の目標

「食べる」、「話す」という人間の根源的な機能をつかさどる器官である歯と口腔を、生涯健康な状態に保つこと

- 1人平均現在歯数は増加傾向。
- 80歳の1人平均現在歯数は、約10歯。
(75-79歳では10.66歯、80-84歳では8.87歯)

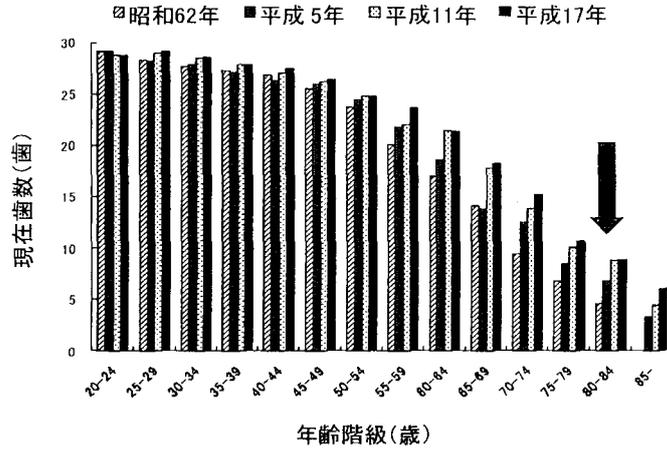
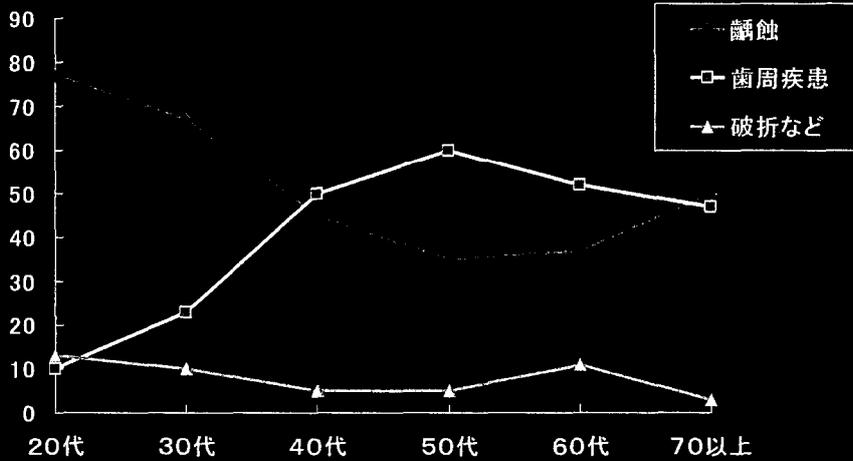


図2 1人平均現在歯数(年齢階級、年次別)

平成17年歯科疾患実態調査

永久歯の抜歯の主な原因



むし歯と歯周病を予防すれば
歯はなくなる

歯科領域の疾患の特徴

歯科領域の代表的疾患

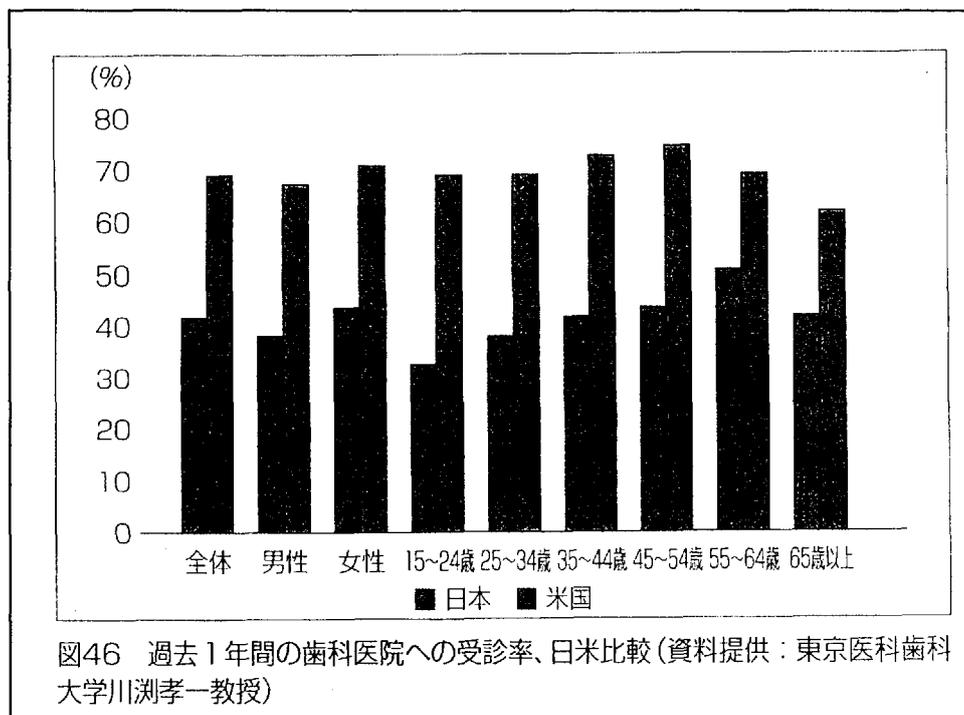
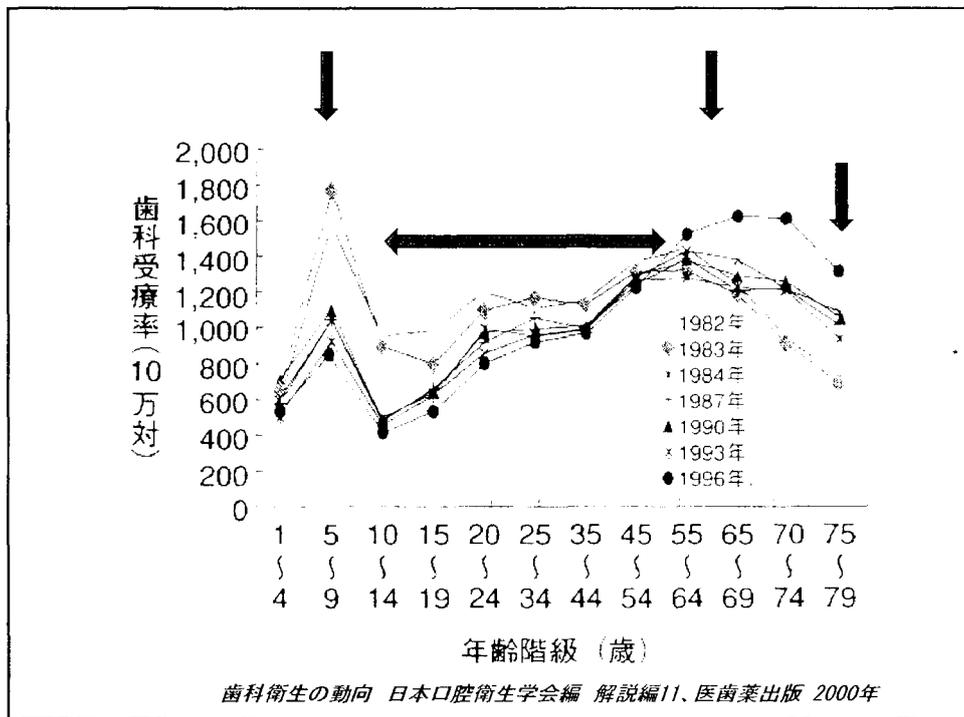
「虫歯」と「歯周病」 —— 国民病

2面性

感染性疾患

生活習慣病

予防法は確立されている



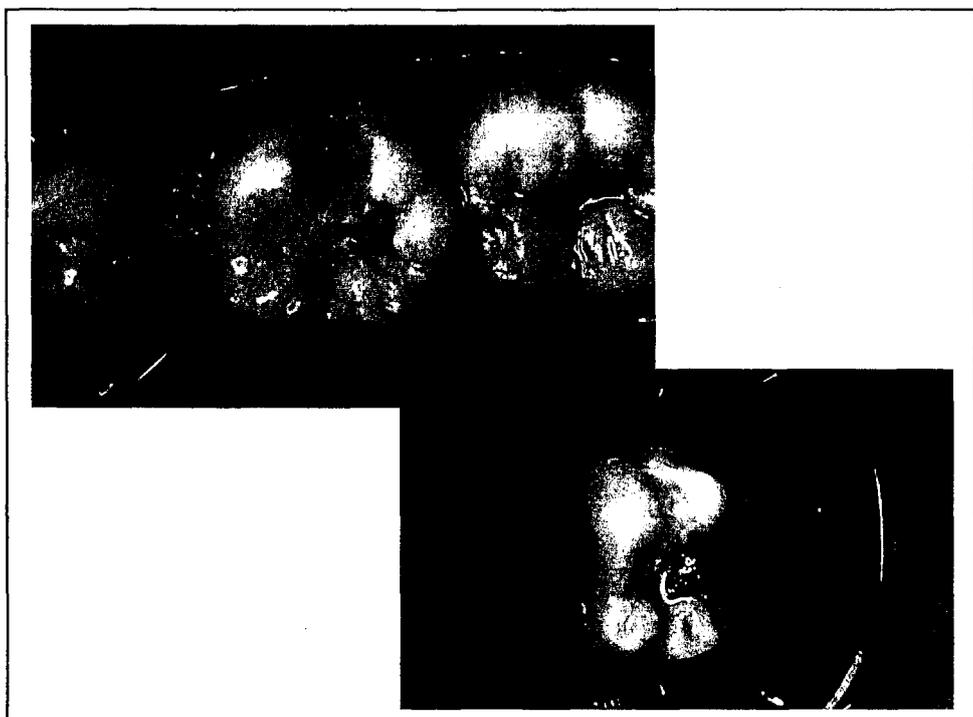
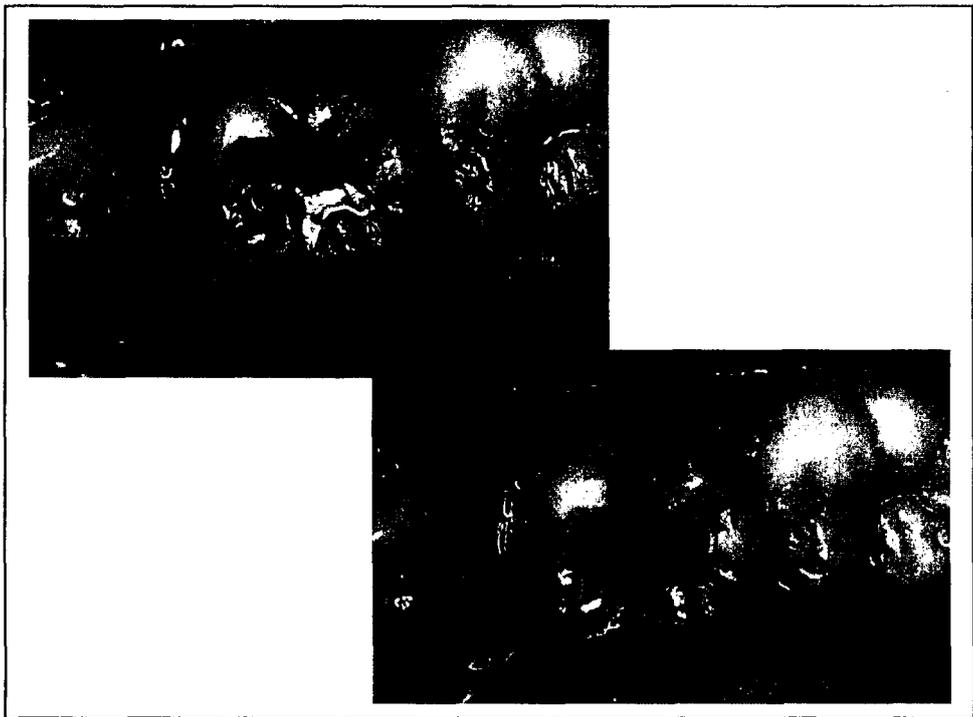
年代別の問題と対策

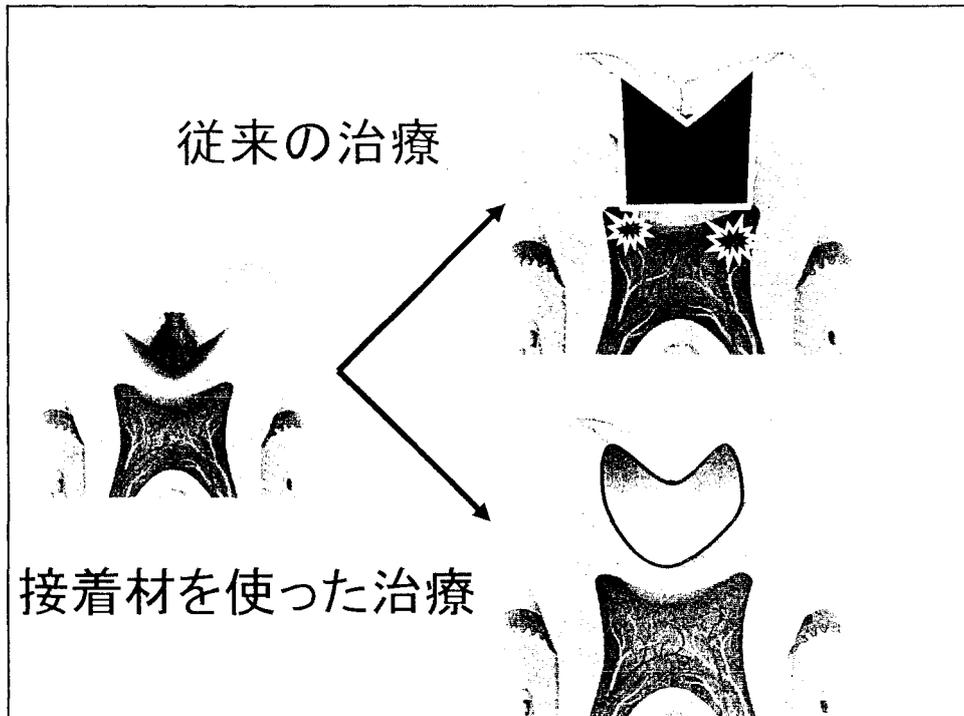
幼児期: 感染時期(2歳2カ月前後)
両親の教育を通して
自己健康観を形成する時期
対策—両親の教育、食育

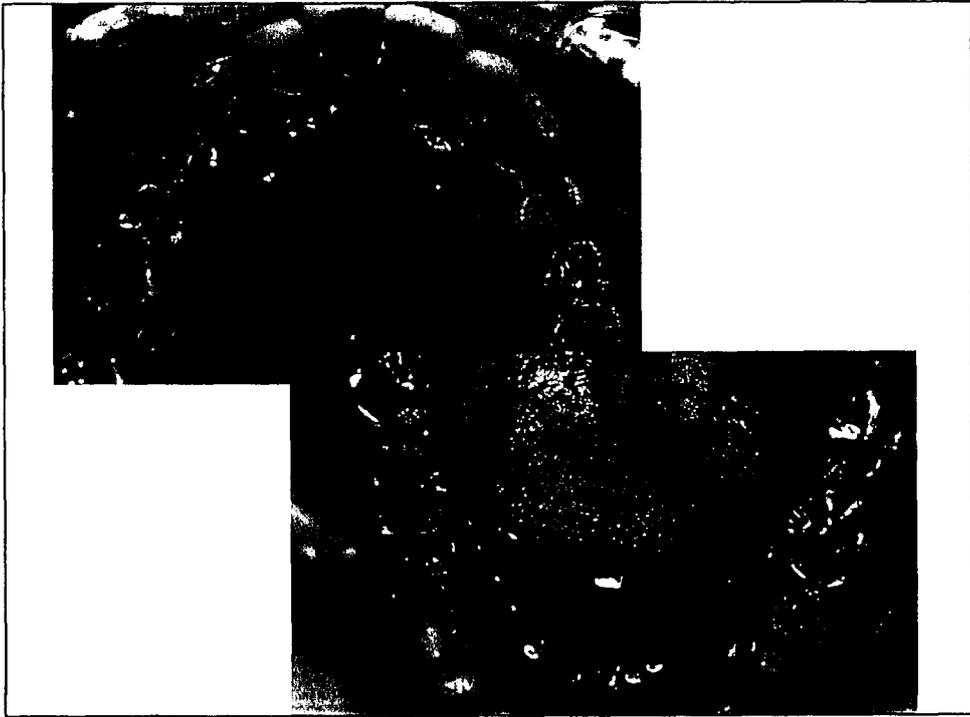
学童期: 永久歯の虫歯発生しやすい …… 予防処置
生活習慣の確立
対策—学校と家庭で予防対策
かかりつけ歯科医

年代別の問題と対策 -2-

青年期: 健康観は病気よりも、
美容、ファッション、口臭など社会生活に
関連したものが中心
生活習慣に問題生じやすい
対策—体液性感染の防衛策の教育
「白い歯」や「口臭」をモチベーションに
口腔衛生指導
学校や職場を通じた健康支援
メディア、企業、業界からの働きかけ



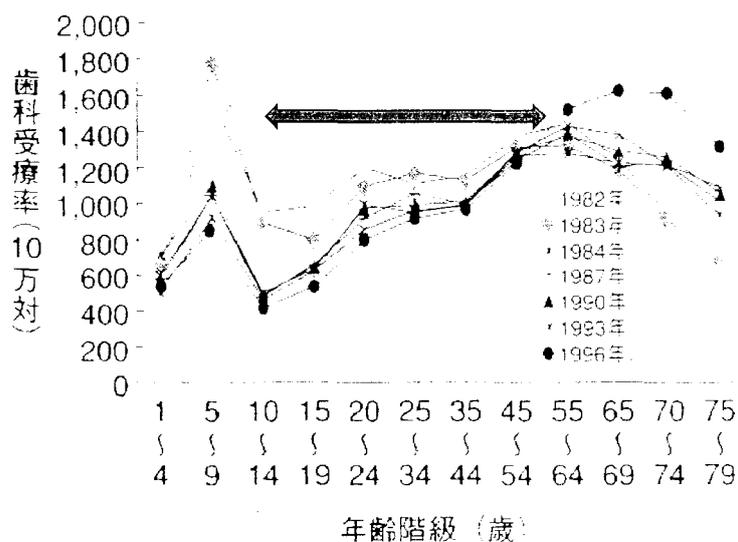




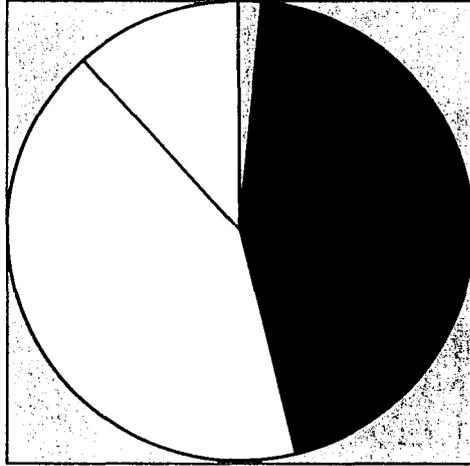
年代別の問題と対策 -3-

壮年期: 家族の健康を考える年代
 歯周病が無症状のまま進行
 対策—定期的な検診とクリーニング

中年期: 生活習慣病のリスク増加
 積極的な歯科的アプローチも必要
 対策—かかりつけ歯科医院で
 プロフェッショナルケア

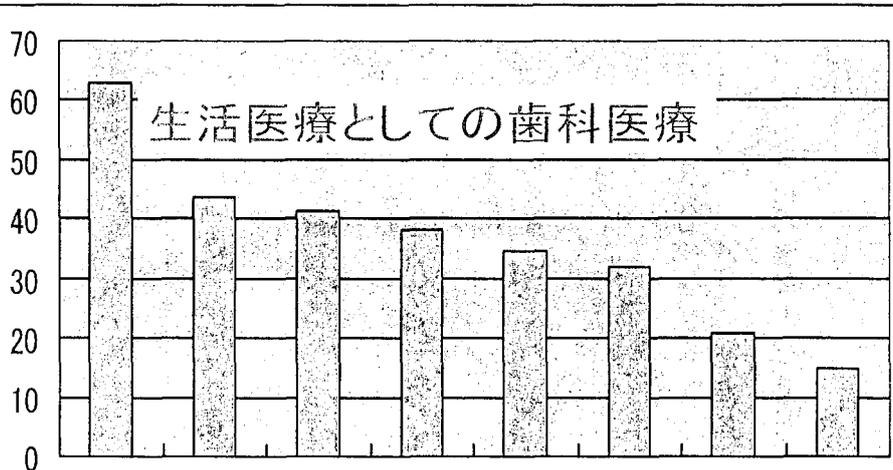


歯科衛生の動向 日本口腔衛生学会編 解説編11、医歯薬出版 2000年



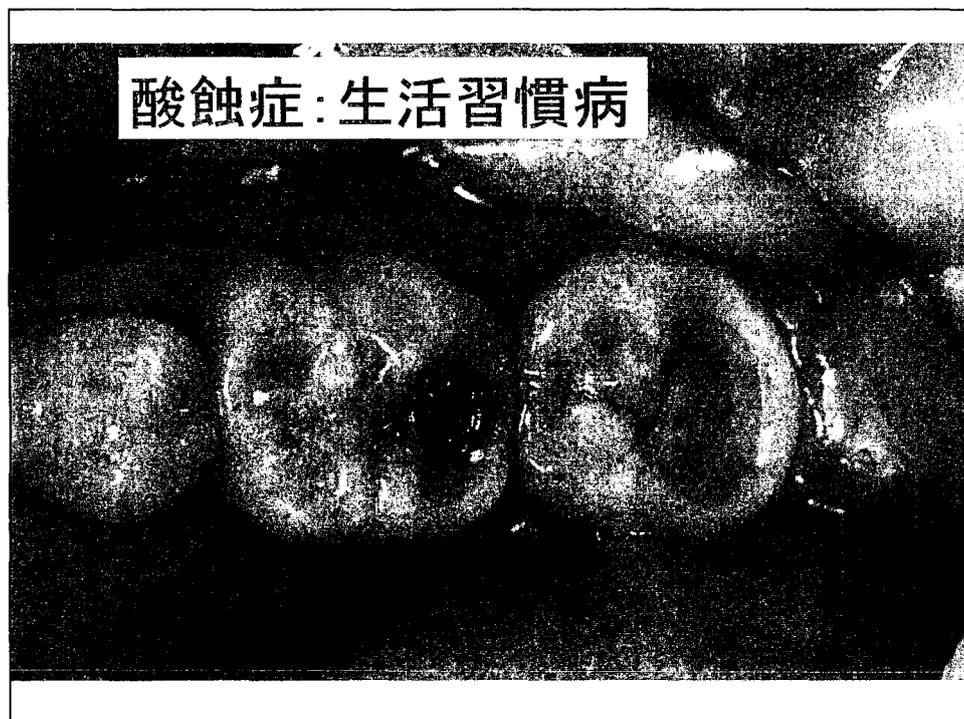
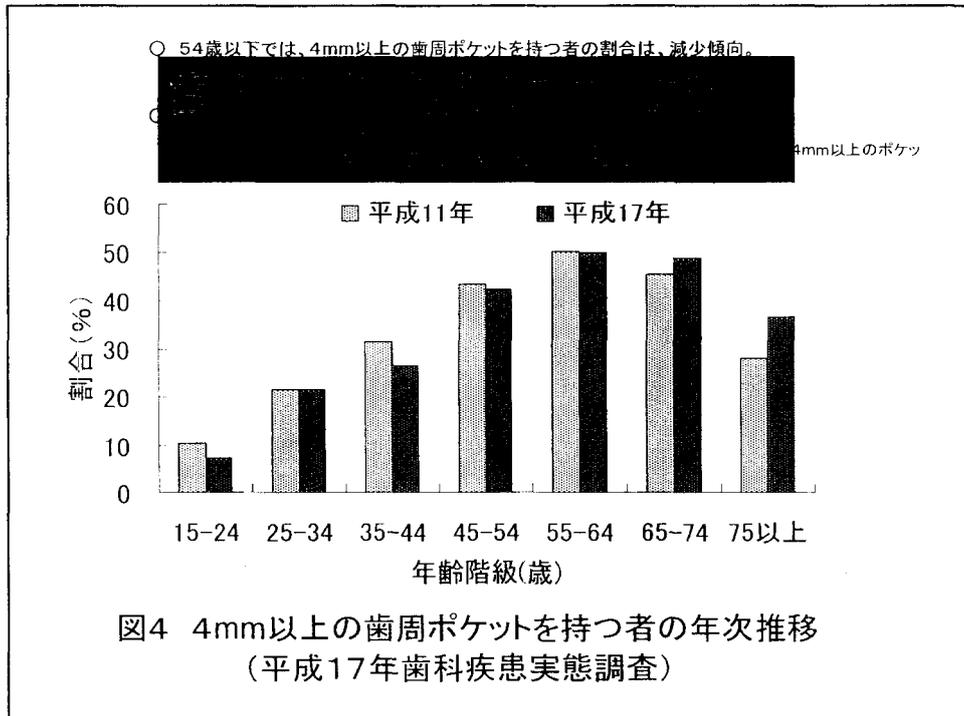
- 充分満足
- まあまあ満足
- あまり満足していない
- 満足していない

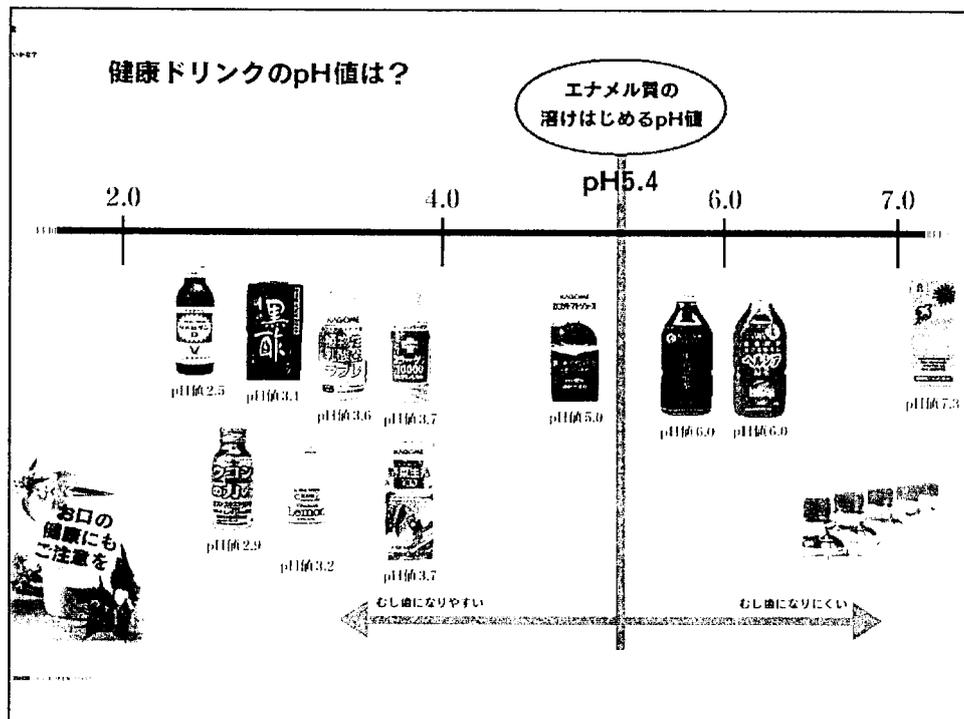
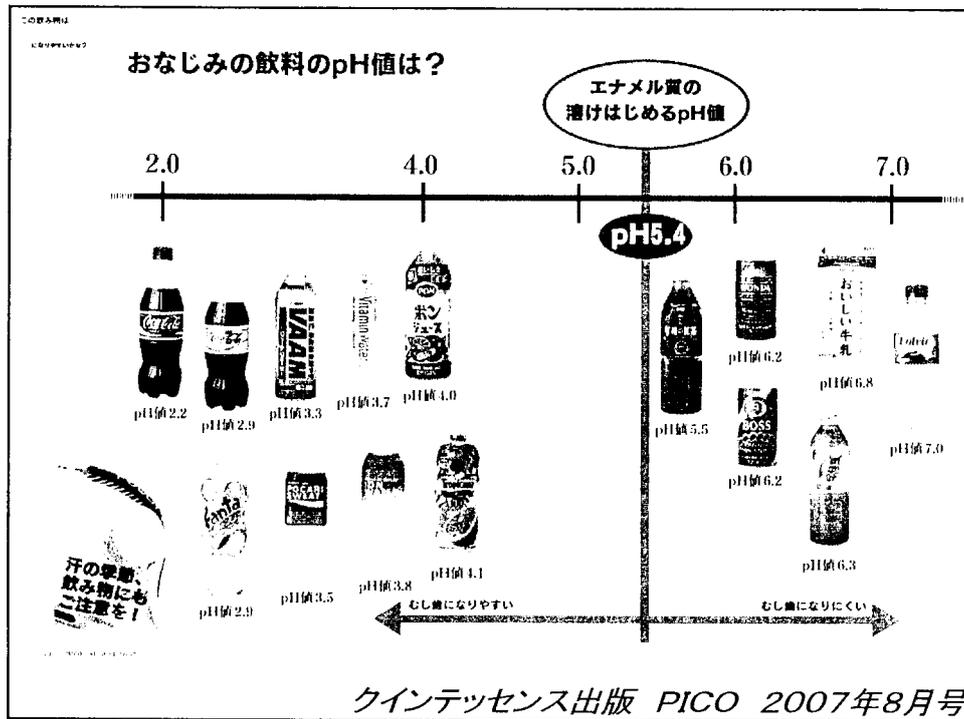
お口の健康についての満足は？

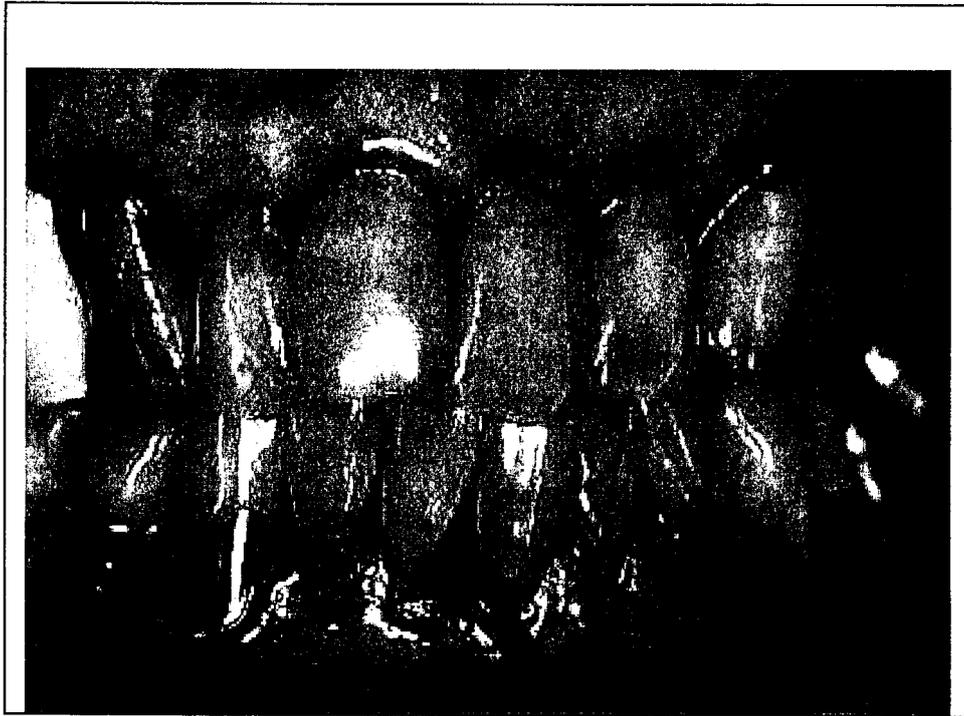


- 歯の色
- 口臭
- 歯並び
- 歯茎の状態
- 歯の痛み
- 歯の数
- 歯のぐらつき
- 顎の痛みや音

お口のことで満足していないことは？

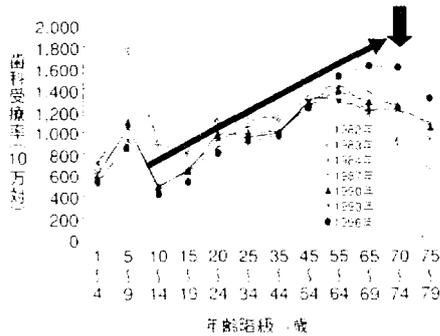






後期高齢者の歯科医療

1. 健康状態の悪化により歯科に通院できない
75歳(健康寿命)を超えると歯科受診率は
減少する



歯科衛生の動向 日本口腔衛生学会編 解説編11、医歯薬出版 2000年

後期高齢者の歯科医療

2. 入院者が増加するが病院に歯科がない

病院総数は 9026カ所

病院の歯科は 1222カ所
(13.5%)

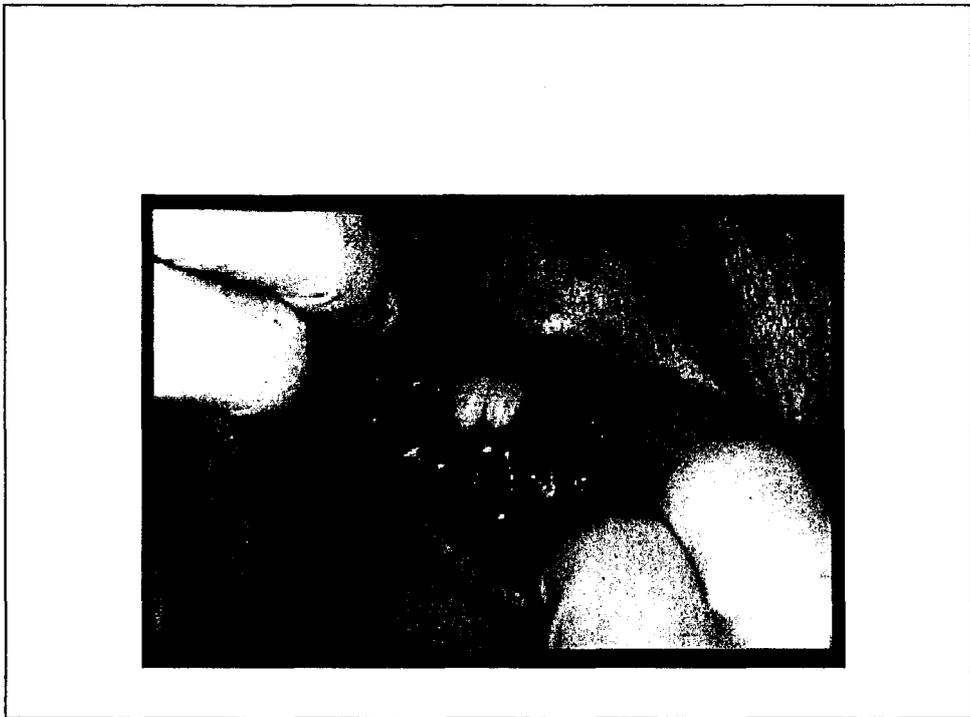
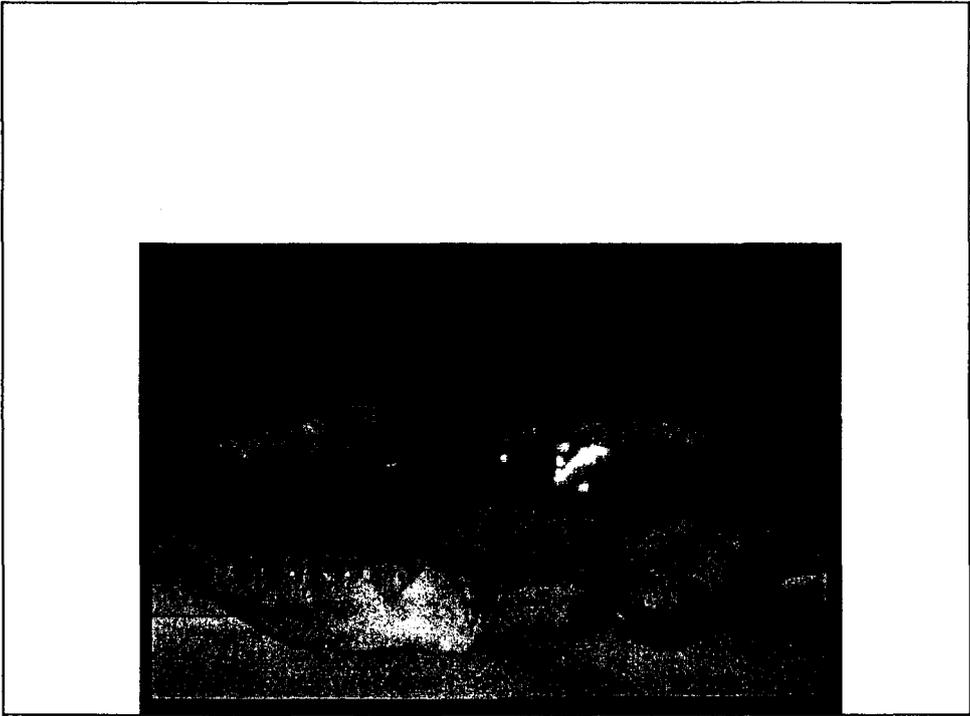
市中の歯科診療所は 66,732カ所

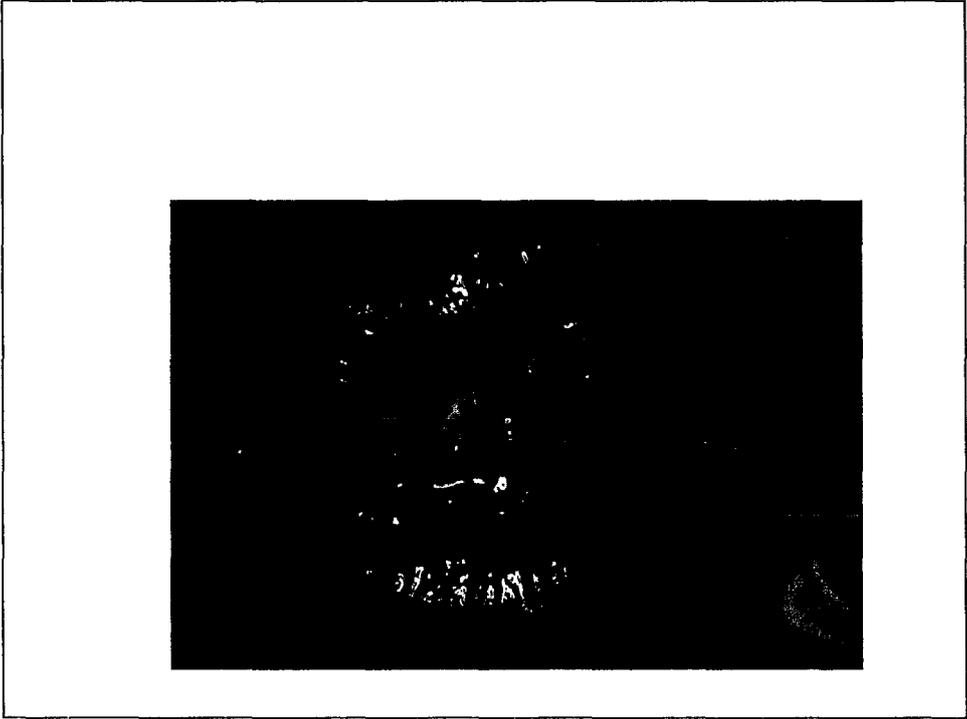
入院により歯科医療サービスが途絶える

初診料、再診療の医科・歯科格差

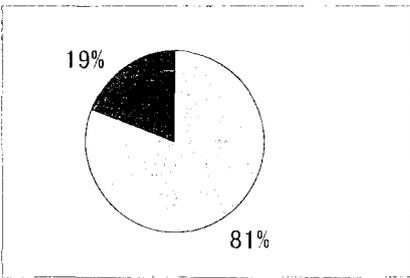
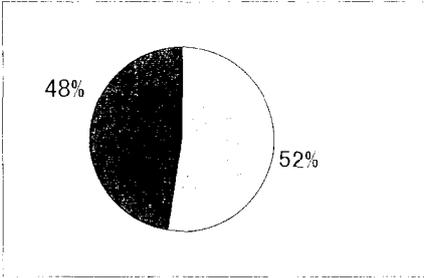
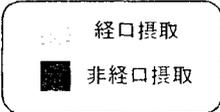
270,60 : 182,40

H17.10 厚労省調べ





計42名



病院に歯科関係者を投入することにより、 病院全体の活性化につなげることができる？

1. 入院中の肺炎を中心とする合併症の予防に
歯科医師を使うと医師は本来の業務に専念できる
(潤沢な歯科の人材を有効に利用できる)
2. 3年制、4年制となった歯科衛生士を病院で有効に使う
→在宅医療につなぐ
歯学卒の歯科衛生士の活用

現在の日本の歯科医療の問題点

- ① 健康保険制度
低すぎる評価: 診療時間、質に反映
予防は原則保険適用外
医科・歯科格差
高すぎる自費診療
- ② 需給問題
対人口比では歯科医師過剰
患者にとって良い歯科医は不足
定員削減と国家試験の合格基準引き上げ: 今後も強化、徹底
歯科医師の生活安定しないと資質の高い人材の獲得困難
- ③ 超高齢社会への対策の遅れ
病院内、施設内は無歯科医地区
口腔内の汚染が原因による肺炎
歯科は不採算診療

予防とケアを義務化すると

歯科医療費 2兆5千億円(平成18年)

歯科医院:66,000施設

1施設あたり約1,800人登録

1日当たり7.5人

1人5千円/1年 6千億円

残り 1兆9千億円でその他の治療

限られた財源で

- ・予防、高齢者の管理はすべて保険で義務化
- ・歯科衛生士が独立して予防処置を担当
- ・年代別の保険プログラム実施
- ・虫歯、歯周病、その他外傷など治療が必要なものをみなおし適正な評価に
- ・先端医療(再生、インプラント、審美歯科)
保険外診療の項目は民間保険を活用
- ・混合診療の解禁を促進して
医療費抑制と革新的材料や技術の開発推進